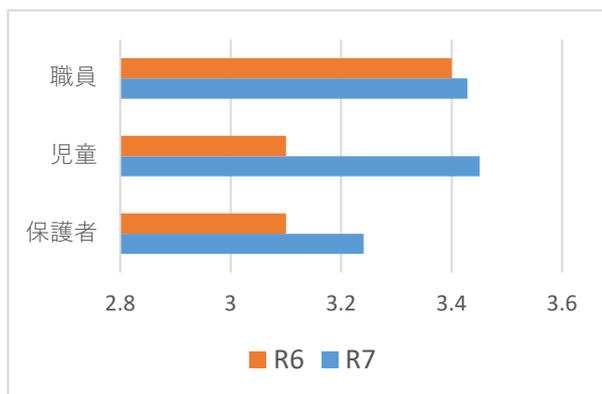


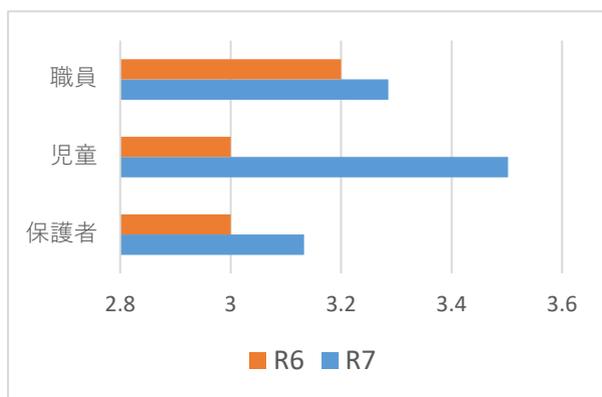
令和7年度学校評価結果(職員・児童・保護者)

①基礎・基本の定着を図るための授業の工夫



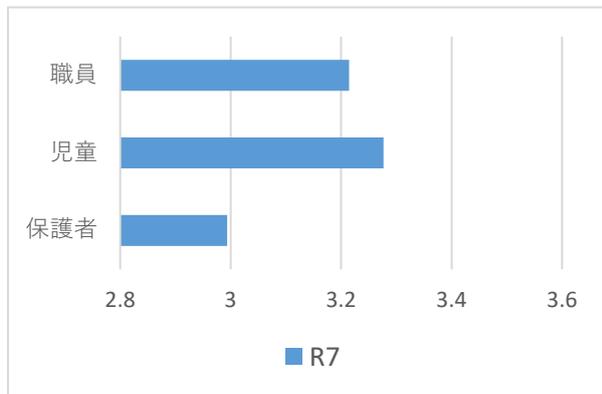
職員、児童、保護者ともに昨年度の評価を上回った。職員の評価は引き続き高く、一人一人が工夫した指導を継続している様子が見える。その結果、児童も基礎・基本の定着を実感しているため高い評価が得られたと考えられる。一方、保護者においては、基礎・基本の定着を実感する機会を設けていきたい。

②児童を学びの主体とした「わかる・楽しい」授業づくり



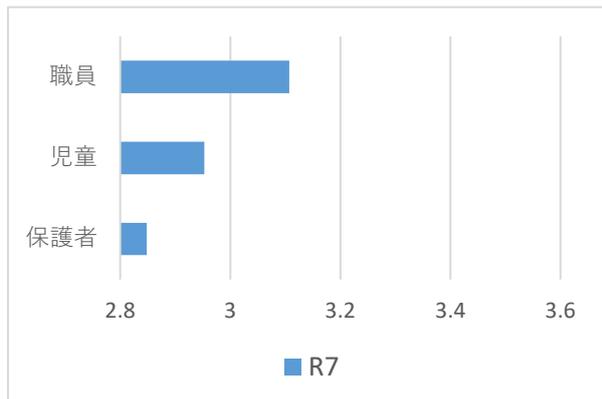
職員、児童、保護者ともに昨年度の評価を上回った。国語科に焦点化した校内研修の取組の成果から、職員の評価も伸び、児童に至っては評価が大幅に向上している。一方、保護者においてはあまり高い評価は得られなかった。今後もすべての児童が「わかる・楽しい」を実感できる授業を創造していきたい。

③学ぶ意欲や理解を促すためのICTの効果的活用



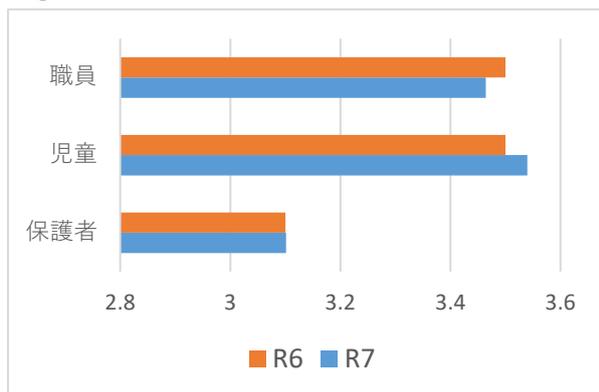
ICTの活用については、職員間で学び合う機会もあり、学習効果を上げる活用が推進されている。児童も個人のタブレットを活用し、様々な場面で意欲的に取り組んでいる。今後、新タブレットをさらに効果的に活用し、家庭での使用も検討しながら、保護者への啓発と活用の実感を促したい。

④基礎・基本の定着と学習習慣の形成に向けた家庭学習の取組



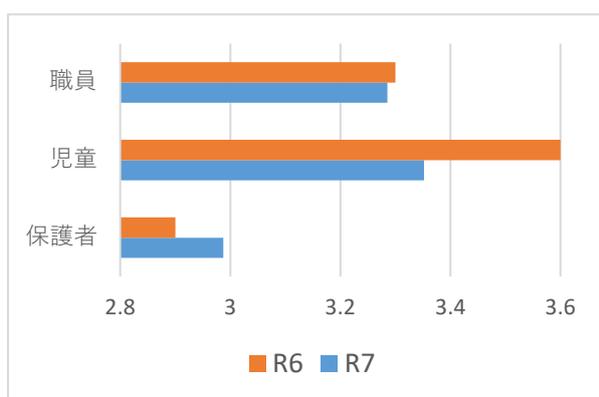
職員、児童、保護者ともに高い評価は得られなかった。特に、保護者の評価は低く、子供の宿題の見届けの肯定率も71%にとどまっている。学校では勉強するものの、家庭では十分な学習時間が確保できていない様子が見える。家庭学習の充実に向け、学校と家庭とで連携して取り組む手立てを模索していきたい。

⑤思いやりの心や規範意識を育てる指導(友達と仲よく)



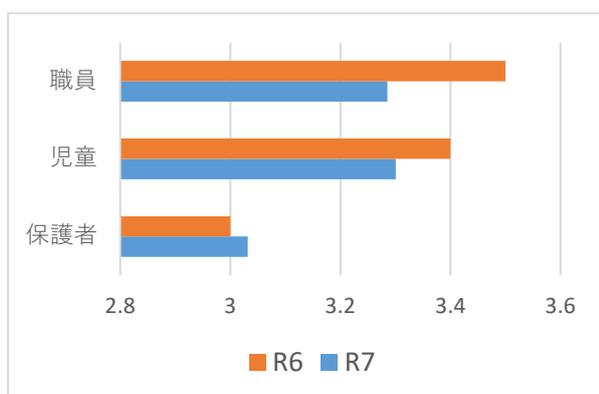
職員、児童ともに高い評価が得られている。日常生活での継続的な指導はもちろん、道徳の授業における研究や指導の充実の成果とも考えられる。保護者からの評価も決して低くはないが、多少の危機意識を持っていただいていると捉え、学校総体としてより一層の指導・支援の充実を図っていきたい。

⑥人権に配慮し、一人一人を大切にされた指導や対応



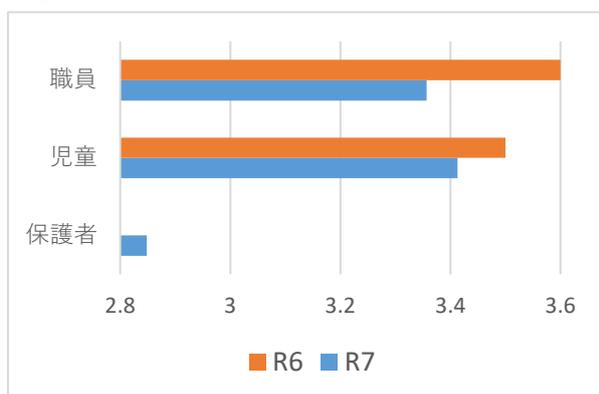
教師、児童、保護者ともにやや評価が低く、厳しく受け止める必要がある。保護者の評価は若干伸びてはいるものの、児童の評価は大きく下がっている。教師の一人一人に寄り添う姿勢や指導の際の言葉遣いや態度などについて、保護者からの指摘も少なくない。人権意識の高揚に向け、更に研鑽に励んでいきたい。

⑦教育相談等を通じた児童理解(認める・褒める)



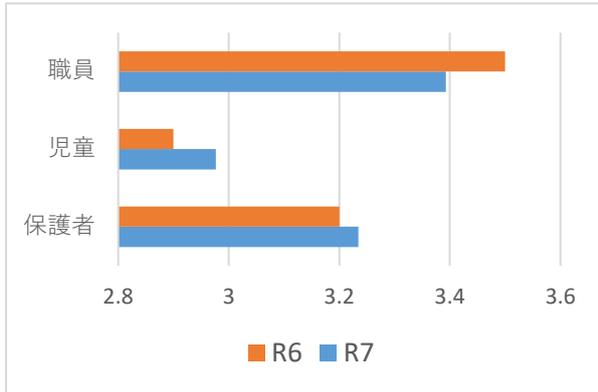
⑥と同様、教師、児童、保護者ともに評価が低い。児童のよさを見つけ、認め・褒め・励まし・伸ばす姿勢ですべての児童と向き合っているか、一人一人のことを理解しようとしているかなどについて、自身の取組を見直し、児童や保護者から信頼を得られるための関わりや連携を深めていきたい。

⑧いじめ・不登校の未然防止のための対応(助けてくれる)



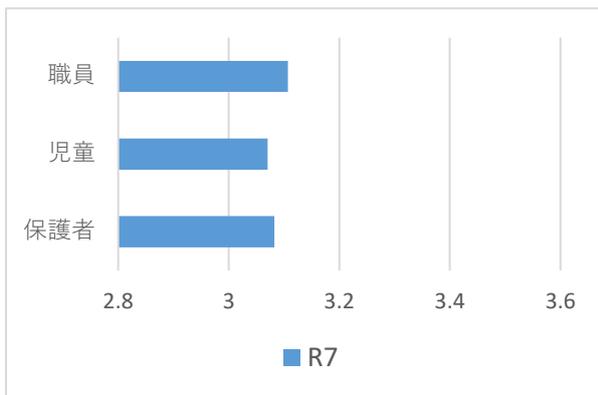
保護者においては、2年続けて低評価(R6の保護者は2.8)となっており、教師、児童の評価も前年を下回っている。人権教育の推進とともに、いじめ・不登校の未然防止において、校内での相談体制を強化したり、SCの活用や保護者との連携を密に図ったりして安心して過ごせる居場所づくりに努めたい。

⑨あいさつ・礼儀の指導(進んであいさつ)



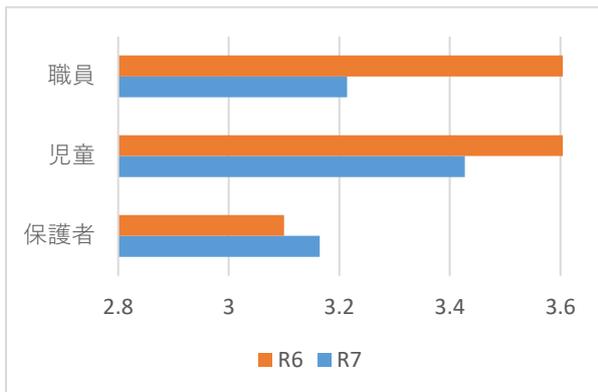
職員の評価はやや下がってはいるものの、保護者の意識も含め、ある程度の評価は得られている。しかし、児童の意識や実践において十分な実態とは言い難い。地域からも、あいさつ等についての指摘や不満が聞かれることも多い。校内でのあいさつ運動に加え、保護者や地域を巻き込んだ取組を工夫していきたい。

⑩自他を高め合う体験活動の充実(互いのよさに気づく)



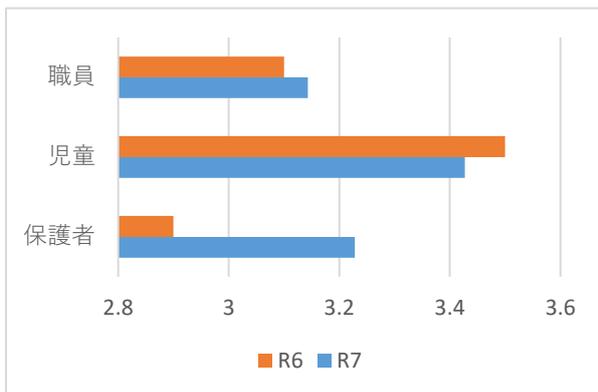
職員、児童、保護者ともに、概ね満足のいく評価が得られた。クラブ活動や行事において、たくさんの講師の方をお招きし、交流しながら自他の可能性を伸ばす取組の充実が図られた。今後も、児童に身に付けさせたい力を明確にして、より一層、「地域とともにある学校づくり」を推進していきたい。

⑪体育授業の充実や体力向上を図る取組



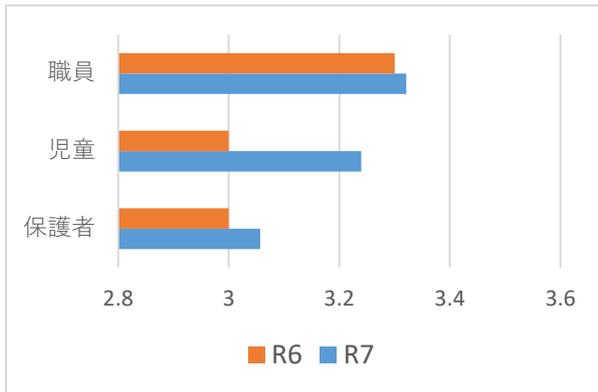
体育の授業や児童会活動を通して、児童が運動に親しむ姿が見られたが、研究指定を受けていた昨年度までの取組が継続できなかった印象を受ける。授業実践は他教科に生かされてはいるが、運動の楽しさを味わい、体力向上を図るために、学校総体として授業及びその他の場面で継続的に取り組んでいきたい。

⑫防災・安全意識の向上(校内や登下校での過ごし方)



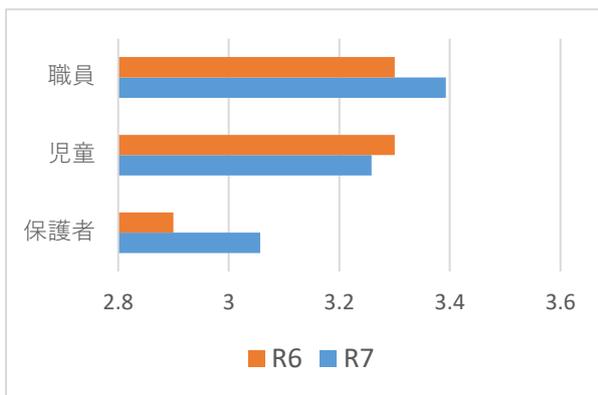
学校内外における防災・安全意識の高まりが感じられる。特に保護者の評価が大きく向上した。一方、教師の評価もわずかではあるが伸びており、学校と家庭との連携に一定の成果が表れている。ただ、登下校中の態度や校内での過ごし方には、指導の余地があり、危険予測、自助・共助などの力を高めていきたい。

⑬基本的な生活習慣定着の日常的指導(時間・決まり・整理整頓)



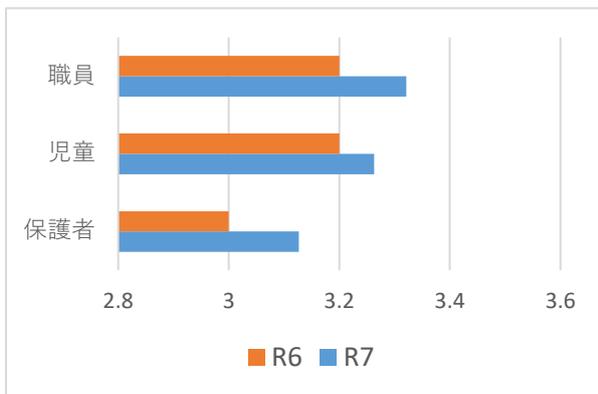
職員、児童、保護者ともに昨年度を上回り、概ね満足のいく評価が得られた。学級担任を中心に、朝・帰りの会の時間などに、繰り返し、徹底した指導を継続した成果と考えられる。児童の様子には個人差も大きいですが、家庭との連携も進み改善につながっている。今後も、学校全体の課題と捉え共通実践に励みたい。

⑭感染症対策やけが等の未然防止



職員、児童、保護者ともに、概ね満足のいく評価が得られた。夏場の熱中症対策における活動時間の制限や冬の感染症流行時期の手洗い、うがい、換気の励行などの指導を繰り返し、通信等での注意喚起も行った。けがの防止については、危険予測や危機回避について考え、判断できるよう指導していきたい。

⑮給食指導・望ましい食習慣の育成(好き嫌いなく食べる)



職員、児童、保護者ともに、概ね満足のいく評価が得られた。栄養教諭や食育担当の指導、各学級での残食を減らす取組や食べ方の指導の成果と考えられる。また、児童会(給食委員会)の働きも一助となっている。今後、準備や片付けの時間も含めた給食指導と食育指導の充実を図っていきたい。

家庭教育について		年度	保護者	児童	親子の意識に大きな差はないが、ゲーム・スマホのルール等については、指導・啓発の必要があると感じる。今後「親の学び」や教育講演会の開催も検討していきたい。
家庭では、親子で話をしている(聞いている)	R7	3.17	3.68		
	R6	3.2	3		
あいさつや「早ね・早起き・朝ごはん」の習慣	R7	3.31	3.31		
	R6	3.2	3.7		
ものごとの善し悪しについて話す(判断できる)	R7	3.44	3.27		
	R6	3.4	3.2		
ゲーム・スマートフォンのルールや時間を決めている	R7	2.76	3.05		
	R6	2.9	3.5		

【保護者からの声（概要）】

- 学校とのつながりが少なく、どんな取組を行っているのかわからず、答えにくい質問項目もある。
 - 教育相談など個別対応の機会がなく、子どもの学校での様子や学力のレベルなどが分かりにくい。
 - 何もなくても実は色々な悩みを抱えていることもあるので、親も子も相談しやすい環境を作っていただけるとありがたい。
 - 怪我や体調不良またはいつもと違う様子は必ず伝えてほしい。また友人関係などのトラブルもよければ知りたい。
 - 色んな悩みやモヤモヤに子どもの話を聞いて寄り添い、尊重してもらいたい。
 - ▲時間割に記載された下校時刻を守ってほしい。帰りが遅くなると心配だし、予定を入れていた時に困る。
 - ▲先生方の言葉遣い、接し方(特に指導時)に気をつけていただきたい。児童だけの時と保護者がいる時の子どもへの接し方、話し方が変わる(言葉遣いが荒い)先生が…。家庭でも言葉遣いは気をつけているので学校でも気をつけてほしい。
 - ▼児童の治安の悪さが目につく。
- △コロナ禍で一旦見直された行事などがまた元に戻ってきている。近年の働き方改革を見れば元に戻さずとも実現出来ているので無理に戻す必要はない。
- 5年生になり、初めて楽しく登校していると思います。今後ご指導宜しくお願いします。
 - 子供をしっかりと指導しながらも、子供の意見を聞いたり、悩みを聞いてくれたりと大変助かっている。これからも家庭や地域との連携をしていってほしい。
 - いつもお世話になっております。勉学はもちろん大事ですが、友達同士の繋がりや思いやり、優しさ、集団生活で大事な事をしっかりと伝えてくださっているように感じます。学校でしか学べないこともありますので、温かい環境で子ども達を見守り、時には厳しくご指導いただき感謝しております。

【次年度に向けて】

- ◎学校と家庭とのつながり（連携）について
授業参観や学校行事後に、個別面談を行う時間を確保したり、電話連絡で情報共有したりして、相談体制を整えていく。
- ◎下校時刻については、記載した時刻を守るよう気を付ける。また、変更が生じる場合は、安心安全メールで周知を図る。
- ◎職員の言動については、体罰（暴言）、ハラスメントの視点、いじめや自殺防止の観点などから、現状を見つめ直し、学校総体として「認め、ほめ、励まし、伸ばす」姿勢で指導にあたるよう、再確認する。
- ◎一人一人を大切に、学校が安心して生活できる居場所となるよう、愛情をもって指導してことを、全職員で共通理解し、実践していく。